Number
14
2016.09.30
Collaboration News Shinamon
協働ニュース しなもん 品聞
発行:品川区・協働ネットワークしながわ

「協働ネットワークしながわ」は 2013 年 1 月に発足。品川区内で協働に関心のある人・社会貢献活動を行っている人々のネットワーク拡大・地域活動の裾野を広げ、区民の協働による豊かな街づくりを目指しています。運営委員会により年 4 回「協働ニュース 品聞」を発行しています。品聞発行を通して区の協働施策事例や地域課題・社会的課題解決のために取り組んでいる団体を広くお知らせしています。

～特集～皆で学ぼう！品川区の協働事例～

誰もがより豊かに暮らせるようになるために様々な課題を解決するには、行政の力だけでなく、NPOや民間団体、企業がそれぞれ得意な分野で力を発揮し、協働していくことが欠かせない時代になりました。年々その協働事業は多様化し増えてきています。

今号ではその中で、主に子ども・文化の分野の協働事例を６つ紹介します。

協働特集号に寄せて

立正大学文学部社会学科地域連携支援室
協働ネットワーク会員　　野呂 一仁先生

仕事で小さな離島に行きます。その島の小さな集落は、約 30 軒からなり、みな漁業を営んでいます。豊かな海が目の前にあり、時には船が沈みそうなくらい魚が網にかかることもあります。春先には真鯛が、初夏には飛魚が。そんな時は集落の人は総出で、網から魚を外すのを手伝います。ある人は網を船から引き揚げ、ある人は魚を外し、またある人はサイズによる魚の仕分けを、そして漁協の荷捌（にさばき）場へ運び、発泡スチロールの箱に氷を入れて魚を詰めます。

島なので本土に出荷する定期船の出航時間があります。間に合わないと商品価値がなくなります。同じ生業をしている人はそのことが意味することを知っていますので、そんな時はみな自発的に手伝います。次は自分かも、と考えながら。

この一連の行為に島の人々は「協働」という言葉を使っていません。そもそも「協働」という意識もないかもしれません。天候により外部との交通手段が断絶するような条件不利地域において、様々な協力は生活上必然なのです。

多くの地域社会では、人々の協力は必然になっていません。みなが同じ生業を持っているわけではなく、生活のスタイルは多様です。常に居住地で生活を送っている人ばかりではありませんし、それぞれが社会関係を構築し、日常を送っています。だからこそ、必然ではない協働を創出することが求められるといえるでしょう。

必然の社会ではなく、分業による社会空間を構築してきた私たちは、いろいろなことを取捨選択することが可能です。その選択肢の一つとして「協働」を取り込む、用意することは、考えてみる価値はありそうです。ただその時に忘れてはならないのは、自立・自発の精神です。先に挙げた漁師の方々の振る舞いは、個々の漁師の自発的行為によるもので、それが必然の島の生活を支えています。このことは私たちの社会空間と無関係ではありません。協働をどのように位置づけていくかが、今まさに問われています。

フランス人学生との文化交流

（NPO 法人 IWC 国際市民の会×清泉女子大学、都立大田桜台高校）

IWC 国際市民の会では**「芸術海外交流会」**の依頼を受けて、2007 年より毎年夏に、フランスのグランセコールの大学に通う学生の日本語研修を受け入れています。今年は６月 13 日から７月１日まで９名の学生を受け入れました。東北大震災後５年振りの受け入れです。

この間（月）から（金）までの午前中、IWC で日本語を学習するプログラムですが、例年週に一日は日本文化体験の日を設けています。過去には会内部での茶道、書道体験や「東京江戸博物館」訪問、また**「荏原ほっとサロン」**の方や**「品川ボランティアセンター」**を通じて募集したボランティア体験希望者と「ゆかたを着て盆踊り」や、**「山中いきいき広場」**で小学生とともに「生け花」を体験しました。

今年は、せっかく来た日本で、同世代の日本の学生たちとの交流を通して、現代の日本文化に触れてほしいという思いから、『協働ネットワークしながわ』や『社会貢献活動展』でお付き合いのある**清泉女子大学ボランティアラーニングセンター**と、IWC の『高校入試支援教室』や『JSL 教室』の生徒が多数学校訪問し、実際に進学している**都立大田桜台高校**に協力をお願いし、**6 月 17 日（金）**に**清泉女子大学、24 日（金）**には**大田桜台高校**訪問の運びとなりました。当日までには IWC との打ち合わせに始まり、それぞれ学内で先生方、スタッフのみなさん、そして学生、生徒さんたちがミーティングを重ね、限られた時間に工夫を凝らした心温まる「おもてなしと交流」の一日が実現しました。

都立大田桜台高校にて

清泉女子大学では、学生の三味線演奏を聞き、台湾の留学生も含めた学生たちと昼食を取りながら「やさしい日本語」でのグループディスカッション。会話だけではわかりにくいことは字を書いたり、アニメを見せたり、清泉女子大学の学生さんたちが様々な工夫を凝らしてくれました。東京都指定文化財である本館での生け花体験と本館見学。庭園散策をする頃には自然とグループに分かれていました。自分が生けた花はお土産としてゲット！

清泉女子大学にて

大田桜台高校では、校長先生のフランス語と英語のご挨拶に始まり、国語の授業に参加し筆ペンで自分の名を漢字で書いた後は、各自自由にクラス参加し、日本語に囲まれました。

IWC 出身の生徒も所属する国際交流部、茶道部や合気道部の協力で茶道や合気道も体験。茶道班手作りのお菓子を頂いたり（お菓子は好きですが、お茶は苦くて嫌いです。と正直な感想も！）、また、腕に覚えある学生は自ら合気道の型を披露するなど、学生、生徒、先生方みな大満足でした。

清泉女子大学ではちょっと照れくさそうに、そして、大田桜台高校では年下の高校生にちょっと先輩の余裕を見せながら、いずれも帰り道は「楽しかった」「良かった」の連発でした。

たとえ言葉による会話は十分ではなくても、多くの方々の協力の下、若い好奇心と実行力で互いに心に残る体験を共有することができ、本当に良かったと思います。これからもこの様な形で、地域の人々と手を携えて、「若い世代の草の根国際交流」に努めていきたいと、再確認しました。

子ども若者応援フリースペース

NPO 6 団体 × 品川区

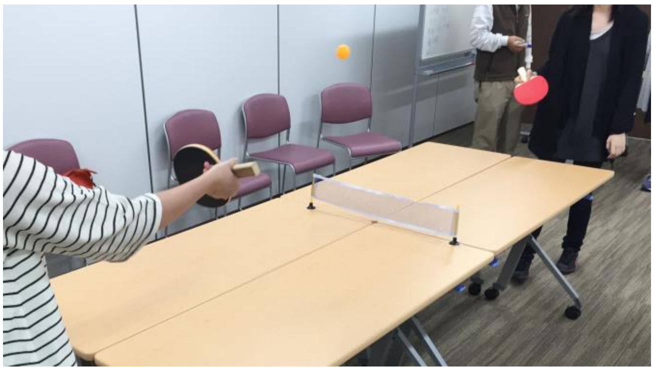
NIRE＆パルレ＆夢の地図＆ウーヴ＆おばちゃんち×ちきちきネット×品川区子ども育成課

子育てやまちづくりなどをテーマにした NPO 法人が協働でネットワークをつくり、毎年一回「子ども・若者」をテーマにした公開セミナーを開催してきました。以下は、セミナーのタイトルと講師です。

2014 年「居場所のチカラ」
　　川崎子ども夢パーク所長　西野博之さん
2015 年「若者はなぜ『就職』できなくなったか」
　　法政大学教授　児美川孝一郎さん
2016 年「子どもシェルターの挑戦」
　　カリヨン子どもセンター　坪井節子さん

その過程で、関わっていた NPO 法人６団体で「子ども若者応援ネットワーク」を設立し、今年５月にオープンした「平塚橋ゆうゆうプラザ」にて、品川区の委託事業として 週に１回 子ども・若者を対象としたフリースペースをスタートしました。

このフリースペースは、不登校や高校中退、ニート・ひきこもりなど、さまざまな「生きづらさ」を持つ子ども・若者たちとその家族を応援する「居場所」です。毎週月曜日の 10 時から 16 時まで、利用は無料で開所しています。フリースペースでは、専門性を持つスタッフが常駐し、さまざまなプログラムを行っています。みんなで食事をつくったり、おしゃべりをしたり、ちょっと運動したり、勉強したり、それぞれが自分のペースで、仲間とつながりながら、安心できて、自信がつく、そんな居場所づくりをめざしています。また、子育てやわが子の自立に悩む保護者の相談にも応じています。



プレッシャーから解放され卓球を楽しむ様子

★フリースペースに通う子ども･若者たち★

不登校で中学生のＡくんは、ふだんは家でゲームやテレビを見て過ごしていました。フリースペースには、最初５分くらいしかいられませんでしたが、徐々に時間が増えていきました。ここでは、卓球などで体を動かせるし、いろいろなプレッシャーから解放され、自由で安心していられる居場所となっています。最近では、学校の勉強も少しやるようになりました。

不安定なアルバイト生活が続いていたＢさんは、気持ちの浮き沈みが激しく、そうした心の問題を誰にも相談することができないでいました。心身ともに疲れ果て、アルバイトを辞めた後にフリースペースで個別相談を受けるようになりました。そこで、これまでの自分をスタッフと話し合いながら見つめ直し、抱え込んでいた生活や将来の不安について、ゆっくりと考えています。この夏から、就労支援事業所へ通所しはじめ、自分のペースで社会とつながる道を模索しています。

しながわチャイルドライン第 15 期受け手・サポーター養成研修

NPO 法人しながわチャイルドライン × 立正大学心理学部臨床心理学科

NPO 法人しながわチャイルドライン（以下 しなチャイ）は今年度 15 周年を迎えます。

これまで、毎年開催してきた「受け手・サポーター養成研修」受講生の多くがしなチャイの活動に賛同し、子どもたちの声に寄り添うことを中心にした活動を続けています。

今回共催となった立正大学とは、しなチャイ設立当初から、心理学部臨床心理学科、故・楡木満生（にれぎみつき）教授から陰ながらのサポートや応援を頂くなど、長いお付き合いがありました。第 4 期養成研修から立正大の学生が延べ 40 名ほど養成研修受講後活動に参加しています。楡木先生が退官されてからも、何人かの先生方と手を繋ぎながら、しなチャイの活動の理解と協力を得たいと各研究室に通いました。そして心理学部臨床心理学科教授小澤康司先生と出会うことになります。先生からサービスラーニングの話を聞き、しなチャイと協働できるのではないかと話が進んでいきました。【＊「サービスラーニング」とは…社会の場の中で社会貢献的活動をしながら、社会理解を深め、社会的役割や貢献のあり方を学ぶこと。】

サービスラーニングの授業の様子

サービスラーニングの授業を開設された先生から依頼を受け、昨年に引き続き今年も、チャイルドラインの成り立ちや現在の状況、電話を掛けてくる子どもたちの悩みや不安、喜びなどをグラフや表などにデーター化した物を示しながら、活動を支えているのはボランティアであることなど、多くの学生たちに知ってほしい内容の授業をさせていただきました。

既にしなチャイの活動をしている学生たちが、授業に出た学生たちの前で経験談を話す時間も持ちました。緊張しながらも誇らしげな姿が見られました。

そして今回、「サービスラーニング」の授業プログラムとして、地元のしなチャイの「第 15 期受け手・サポーター養成研修」を受講するということになりました。

「受け手・サポーター養成研修」プログラム

しなチャイの今後の課題は、安定した運営ができるような体制作りです。

一つは財政基盤です。基本的には、会員の会費、個人・団体からの賛助会費、毎年ご協力を頂けた団体・企業・企業社員の福利厚生からのご寄付や助成などを中心にしたものです。

これからは、「人」のサポートやアイディアをいただけるような企業、また最近耳にすることが多くなったプロボノ【pro bono publico ラテン語「公共善のために」という意味の略】で支援していただけるように、広報・渉外を中心とした活動が求められていくのではないかと思います。

また、これらのことを一つの団体で行うのではなく、立正大学を含め品川区の NPO 団体・企業などと共に活動し、続けていくことが必要になっています。

これからも、電話の向こうに居る子どもたちの声に耳を傾け、気持ち・心に寄り添いながら、多くの大人たちと手を繋いで、社会へ発信のできる団体を目指していきたいと思います。

参加・体験・感動！ふれあいこどもまつり

ふれあいこどもまつり品川実行委員会×（公財）品川文化振興事業団×創造団体

「参加・体験・感動！ふれあいこどもまつり」は、ふれあいこどもまつり実行委員会、東京都、および（公財）東京都歴史文化財団が主催となり、今年13 年目を迎えます。今年度は品川区をはじめ、都内 5 ヶ所において行われる子ども向け舞台芸術参加・体験プログラム事業です。この事業の目的は、子どもたちが芸術についての理解を深め、表現や創造のすばらしさを実感し、人間への興味を育て、文化を生み出す豊かな心と感性を育むことを目指しています。　平成 27 年度より（特非）品川こども劇場を中心に（一財）六行会、ふれあいの家－おばちゃんち、しながわチャイルドライン、参加創造団体、ふれあいこどもまつり地域プロデューサーとで地域実行委員会をつくり、毎月一回程度の実行委員会の中で作品の選定や会場づくり、係員の募集、配置など検討しています。今年は、11 月から２月にかけて学校や児童センターなど子どもたちに身近な施設で様々なジャンルの芸術家と交流するアウトリーチ活動や平成 29 年２月 26 日（日）にきゅりあんで行われる舞台鑑賞や参加体験としてのプロによるワークショップ等を実施し、子どもたちがさまざまなジャンルの芸術に直接ふれる機会を提供します。また、有料プログラムとして、小ホールでは「ミュージックボックスのおもしろミュージッククランド」ビックホーンミュージック、イベントホールでは「オーケストラ体験＆オーケストラ探検コンサート」日本サロンコンサート協会、「作って遊ぼうタップダンス人形」グレゴの音楽一座、「これであなたも人形遣い」劇団ひぽぽたあむ連携企画、大ホールでは「創作歌舞伎　牛若丸」劇団前進座を開催します。

昨年は初めての取り組みで、実施することだけで精一杯でしたが、今年度は実行委員会の検討の中で、当日会場に来た子どもたちが一日楽しめる場所をつくろうということで、地域企画として入場無料の「あそびのひろば」を設けます。日本の伝承遊びやわらべうた、読み聞かせなどを企画中です。また気軽に飲食、休憩できるスペースをつくります。

共催団体として（公財）品川文化振興事業団からは施設利用についてはもちろんですが、広報とチケット販売を中心に、区民の方により伝わるための様々な提案をいただき、昨年度多くの来場者につながりました。今年度も区報しながわや広報誌CULIA などの掲載、きゅりあん館内や品川区内施設での宣伝活動に協力していただいてます。

ふれあいこどもまつり（きゅりあんイベントホールにて）の様子

この事業を通して、子どもたちの生活圏に文化芸術が根ざすことを大切に思う人たちが品川にたくさん存在し、それぞれの立場で活動していることが見えてきました。次代を担う子どもたちにとって、生き抜く力を育てる上で文化芸術体験は必要なことです。

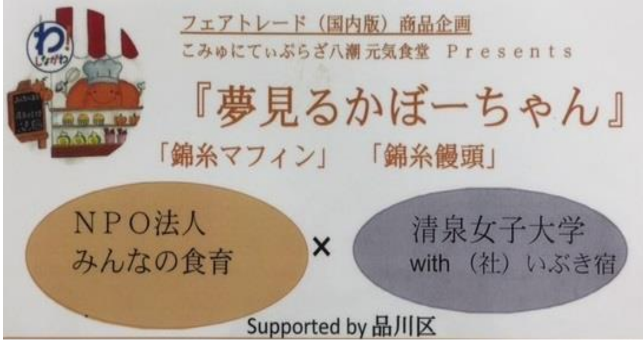
今後、地域で協働する仲間を増やし、ネットワークの輪を広げていき、このふれあいこどもまつりをきっかけに、品川のすべての子どもたちが生活環境に関係なく文化芸術体験の機会に出会えることができるよう、継続した活動をしていきたいと思います。また 2020 年のオリンピックパラリンピックに向けてもこのネットワークが生かせる活動を行いたいと考えております。

清泉女子大学ボランティアラーニングセンター×

NPO 法人みんなの食育×社会福祉法人トット基金×品川区立日野学園

Ⅰ　「品川版フェアトレード
～食育を通して地域協働を推進！」
～NPO 法人みんなの食育・社会福祉法人トット基金
（一社）いぶき宿・Seo グループ～

当センターでは、2006 年から、東ティモール支援の一環で、「フェアトレードコーヒー販売」を学内で開始しました。　その後、2008 年に社会貢献活動しながわで発表、品川区地域活動課協働推進係を通して、2014 年には、NPO 法人みんなの食育から「八潮こみゅにてぃぷらざ元気食堂で扱っているコーヒーをフェアトレード商品にし、食育の観点から協働したい」と協働依頼をいただきました。そこで 2015 年には「海外の生産者のみならず、品川区の防災協定先である東日本大震災被災地福島県の農家の方々も応援したい。」という案も入り、素材として(一社)いぶき宿の福島産錦糸かぼちゃを使用し、元気食堂の管理栄養士と学生企画による「夢見るかぼーちゃん　マドレーヌ・饅頭」を「2016 品川区消費生活・社会貢献活動展」で発表、200 個販売しました。 ラベルは山中小学校のお母様にデザインしていただきました。 2016 年になった今、さらに区内の協働をすすめるため、社会福祉法人トット基金にご協力いただき、トット基金の畑作物を使用した商品を検討中です。　品川区の皆様と協働を始めて 10 年が経ちますが、今後もさらに区内の協働を推進し、「品川区民憲章」にあるように人間性豊かな環境づくりや地域社会を共に作る一員となるため努力する所存です。



＊「フェアトレード」とは・・・発展途上国で作られた作物や製品を適正な価格で取引し、生産者の生活を守る国際的な仕組み。身近な商品ではコーヒー、チョコレート、アパレル商品があります。購入することで国際協力に参画することが出来ます。

Ⅱ　「品川区立日野学園
英語絵本読み聞かせ」
～ボランティアから授業の一環へ～

2003 年に公立小学校では、総合的な学習の一環として国際理解教育が導入され、区によっては英語に親しむ活動が行われてきました。　2011 年には、外国語（英語）体験活動が 5,6 年生を対象に必修化されています。取り組みは都内でも区によって様々です。

このような状況の中、2011 年に、品川区立日野学園の副校長先生から「大学で学ぶ英語の発音を生かした英語絵本読み聞かせボランティア」を依頼され活動を開始したのがきっかけです。その活動は年々変容し「英語の発音を重要視するボランティア→授業の展開を意識した活動→授業の一環として子どもたちと交流を深め、より英語絵本に親しんでもらう活動」という内容で現在は活動しており、学内の地球市民学科　辰巳頼子先生のプロジェクト－PBL（Project Based Leaning）に参加。将来は小学校教員や、中学高等学校教員、こども教育関連の仕事に就きたい、又は子どもボランティアに興味がある、品川区立小学校教育の現状を学びたいという学生が集まり、活発に活動しています。2016 年から日野学園の先生方、地域学校コーディネーターの方、JTE（日本人英語指導者）の方からもご指導いただき、感謝しています。学生は日々読み聞かせ練習や本の研究、子どもへの対応について話し合うなど、より効果的な活動を目指しています。詳しくは以下のフェイスブックをご覧ください。

https://www.facebook.com/seisenpblteam/photos/pcb.1739519099594776/1739517509594935/?type=3&theater

ボランティアの学生

Playbourhood Street Tokyo project
とうきょうご近所みちあそび ⇒ 緋毛氈（ひもうせん）ロード

NPO法人ふれあいの家-　香港上海銀行　一般社団法人とうきょうプレイ
おばちゃんち×HSBC×TOKYO PLAY×旧東海道まちづくり協議会

◆ 全都でとうきょうご近所みちあそび！

約150年前に創立した当初から、社会貢献を視野にいれていた**香港上海銀行**(HSBC)は、日本でも『HSBCコーポレート・サスティナビリティパートナーシップ』という制度で、様々な市民活動を応援してきていました。今回の事業は、ご縁があり**ふれあいの家-おばちゃんち**がHSBCより寄付を受けて、TOKYO PLAYが運営協力をし、「道あそび」のモデル事業を全都で展開するというものです。車最優先になってしまった道を、子どもが遊び、育ち、世代を越えた地域のコミュニティーの場に復活させるきっかけにしたいという趣旨は、**おばちゃんち**とTOYKO PLAYの活動に通じるものでもありました。

◆ 北品川では緋毛氈ロードとして開催

そして、都内数カ所で行うモデル事業のひとつを、**おばちゃんち**の活動拠点エリアでもある北品川の旧東海道で「緋毛氈（ひもうせん）ロード」を行うことにしました。「運河まつり」と「元気フェスタ」という二つの大きなイベントの間をつなぐ仕掛けとして、**旧東海道まちづくり協議会**と**おばちゃんち**が協働して商店街の方々の力も借りながら４月10日に行いました。緋毛氈の縁台では囲碁をしたりおしゃべりしたり、人工芝の上では、昔あそびや絵本や楽器を楽しんだり、地面にはチョークでお絵描きもし放題でした。たまたま通りがかった親子、同日に開催された忍者修業中の子ども達、喫茶店から出てきたご年配の方々、それぞれが、道で楽しく過ごしていました。運営に関わる人達も例外でなく、はたから見たら誰が運営者なのか参加者なのかがよくわからないようでした。

◆ 長く続けていくには？

４月10日は、TOKYO PLAYが全面的にバックアップしたモデル事業として行ったわけですが、７月31日の２回目の緋毛氈ロードは、北品川の地元の事業として行うことになりましたが、まだまだTOKYO PLAYの力を借りなければ実施はできない状況でした。**まちづくり協議会**や**おばちゃんち**、**地元消防団**、**品川はらっぱ探検隊**、**区の防災課**の方も力を発揮して、水不足の心配のある中、ウォータースライダーと防災体験をメインとした内容で行うことができました。

「とうきょうご近所みちあそび」の様子

11月には第３回目を行いますが、その後もこの旧東海道で「緋毛氈ロード」を続けて行くためには、品川のこの地域で暮らし、活動をしている人達で担っていける人の輪を作ることだと思います。

◆「みちあそび」を品川全域に広めていきたい

この事業は「とうきょうご近所みちあそび」のモデル事業であり、広く都内全域に広めていく仕掛けも作っていきたいところです。また、品川区内の商店街や緑道など、実施可能なところあちこちで「みちあそび」が行われるようになっていくことも目標です。「みちあそび」は、無理なくそれぞれの場でできることを行なえばよいわけですから、基本的なノウハウを示したり、すぐに用意することが難しい人工芝や遊び道具一式セットを貸し出せるようにして行けたらとも考えています。道あそびが広がることで、子どもの遊びを真ん中に、希薄になっている人と人とのつながりを少しでも取り戻し、新たな地域コミュニティーができればと思うのです。

トット文化館　見学会を終えて

社会福祉法人トット基金 トット文化館　石倉摩巳

７月 14 日（木)、社会福祉法人トット基金 トット文化館（以下 トット）にて見学会を開催しました。

トットは、黒柳徹子著書「窓際のトットちゃん」の印税から設立された法人であり、公益事業として日本ろう者劇団活動と手話教室、福祉事業として聴覚障がいと他の障がいを重複した方が通所する就労継続支援 B 型施設、この２つの事業を行っており、他に類を見ないユニークな法人です。

見学会は４年前にも開催され、２回目となる今回は約 30 名の方に参加いただき、予想を超える数に嬉しい悲鳴をあげました。

見学会の前半は、福祉事業の２本柱である簡易作業と農園をご覧いただき、後半には日本ろう者劇団のろう俳優によるワークショップを行いました。

ワークショップでは、声でコミュニケーションを取ってはいけない、というルールのもと、楽しみながら懸命に言葉を伝えようとしている皆様の姿がうかがえ、伝えようとする「気持ち」の大切さを改めて感じました。

聴覚障がいに関する福祉施策は、まだまだ発展途上と言われております。この見学会が、聴覚障がい分野の理解に繋がり、また、皆様の活躍の糧となることを願っております。最後に参加された皆様に心からのお礼を申し上げます。

手話教室体験の様子。
講師の伊崎哲也先生によるミニ講習会が開催されました。

トット農園では畑作物を育て販売しています。

協働ネットワークしながわイベントのお知らせ

「健康いきがいフェスタ 2016」にいらっしゃい!
地域はあなたの出番を待っている！
いろいろな関わり方が一堂に集結！
詳しくは以下のフェイスブックをご覧ください。
https://www.facebook.com/events/1725707610974121/

2016 協働ネットワーク勉強会

（1）「か・い・が・い視察報告会」
（平成 28 年 10 月 3 日(月) 18 時 30 分～）
認知症高齢者の自治による街づくり（オランダ）と、北欧における若者の社会参加事例を学びます。

（2）「防災ワークショップ」（平成 29 年 1 月開催予定）
品川区の有事における自助共助とは？
毎年実施する連続講座です。

（3）**「IT 講習会」（平成 29 年 3 月開催予定）**
日頃の活動に必要な IT 知識を学びます。

日時・場所は協働推進係におたずね下さい。
全て参加費用は無料です。どなたでもお越しください。

協働ネットワークしながわ入会方法

「協働ネットワークしながわ」は、どなたでも入れる会員制。施設見学会、学習会、情報交換会などを行っています。協働に関心のある方はお気軽に問い合わせください。**窓口：地域活動課　協働推進係**

〒140-8715　品川区広町 2-1-36
☎ 03-5742-6693
✉
chikikat-kyodo@city.shinagawa.tokyo.jp